

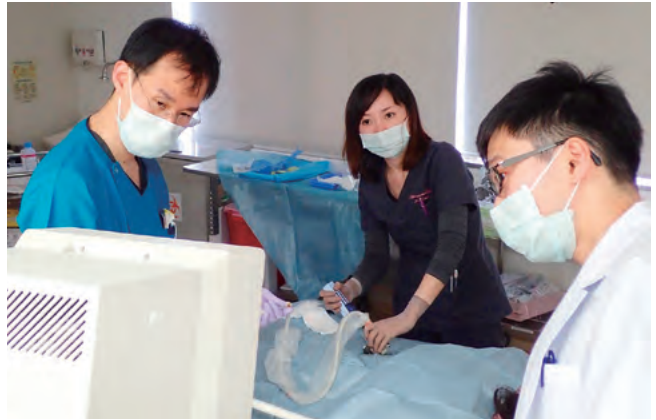
# 腎臓内科専門医、リウマチ専門医プログラム



**プログラム責任者**  
 血液・腎臓・膠原病内科学講座  
**小松田 敦** 准教授

専門研修  
 担当者  
 連絡先

齋藤 雅也 助教  
 TEL.018-884-6116 FAX.018-836-2613  
 E-mail masaya@med.akita-u.ac.jp  
 HP <http://www.med.akita-u.ac.jp/~naika3/>



## プログラムの特徴

腎臓内科、リウマチ科の専門研修により、腎臓専門医とリウマチ専門医の両方をめざすプログラムです。

腎臓内科はこの10年で大きく変わりました。旧来の「腎生検、腎病理、個別治療、ステロイド」というイメージは一部に過ぎません。抗凝固治療や感染症診療における急性腎障害(AKI)と予後に多大な影響を与えます。慢性腎臓病(CKD)においては、血圧はもちろん、ミネラル骨代謝や貧血管理による予後改善、あるいは糖尿病性腎臓病(DKD)や薬剤性腎障害(DKI)という新たな概念が登場しています。これらによって、「腎生検しない腎臓専門医」、「コンサルテーション主体の腎臓専門医」の立ち位置が確立しています。

リウマチ科は新たな薬がますます登場し、もともとホットな分野でしたが拍車がかかっています。もともとの治療進歩に加え、生物学的製剤、分子標的薬により近年発症した関節リウマチ患者はほぼ変形しなくなりました。たくさんの患者さんからの感謝を直に受けられ、医師の満足度も高い分野です。近年は、戦略的に休薬したり投与間隔を空けたりと、費用対効果の研究が進んでいます。午前は外来で楽しく患者さんと会話し、午後は自己研鑽に励むのが現在のリウマチ専門医の姿です。

## プログラムの説明

「おはよう」から「おやすみ」まで患者さんとともに。

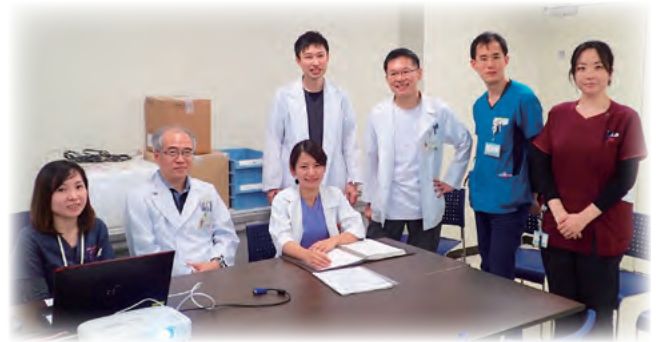
**腎臓内科:** 患者さんに腎生検を勧め、腎生検を行い、読み、説明し、治療します。急性腎障害、慢性腎臓病、薬剤性腎障害など腎組織から離れた分野で「腎臓専門医」としても活躍できます。

**リウマチ科:** 関節に触れて感じ、検査し、考え、説明し、治療します。関節リウマチ以外の膠原病が好きな方には、腎障害、肺障害などの臓器合併症を学んでいただけます。また時々来る「よく分からない患者さん」には、全員で意見を出し合っ解決していきます。どちらも発症から患者さんの一生に関わります。

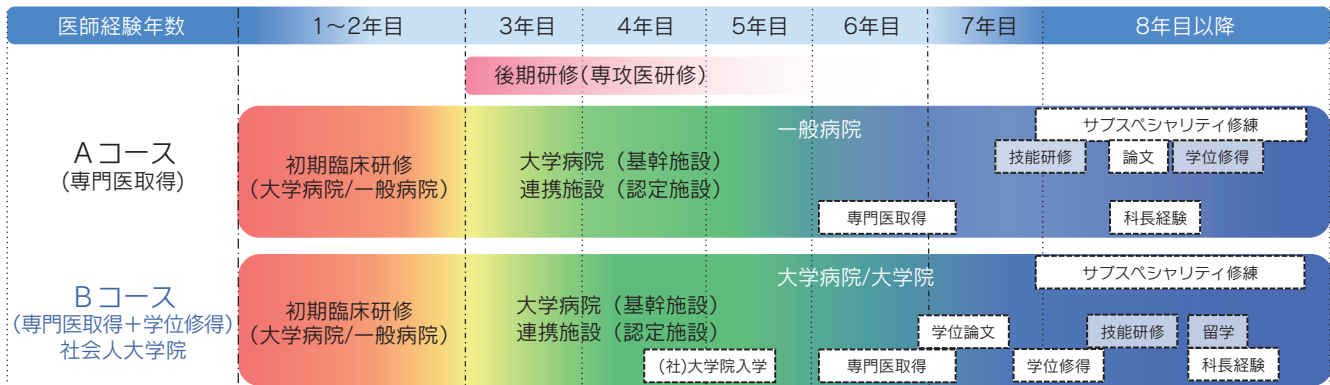
**ワークライフバランス:** いずれも慢性疾患が主体ですので、外来診療、入院診療とも時間外までかかることはほとんどありません。育児中のプログラム参加も歓迎いたします。

## 専門医、指導医、出身地、施設認定、関連施設など

当科スタッフは、卒後10年目までに腎臓専門医とリウマチ専門医を取得できています。したがって現状では、スタッフほぼ全員が専門医です。指導医も複数勤務しています。出身地は秋田県が多いですが、山形、岩手などの東北地方や関東出身のスタッフもいます。もちろん日本腎臓学会、日本リウマチ学会の教育施設です。



## 取得までのキャリアパス



※腎臓専門医とリウマチ専門医は、学会会員歴が5年以上必要です。

1年目に入会すれば最短で6年目に取得可能ですが、3年目に入会した場合には8年目以降となります。

◆主要なサブスペシャリティ: 腎臓専門医、リウマチ専門医